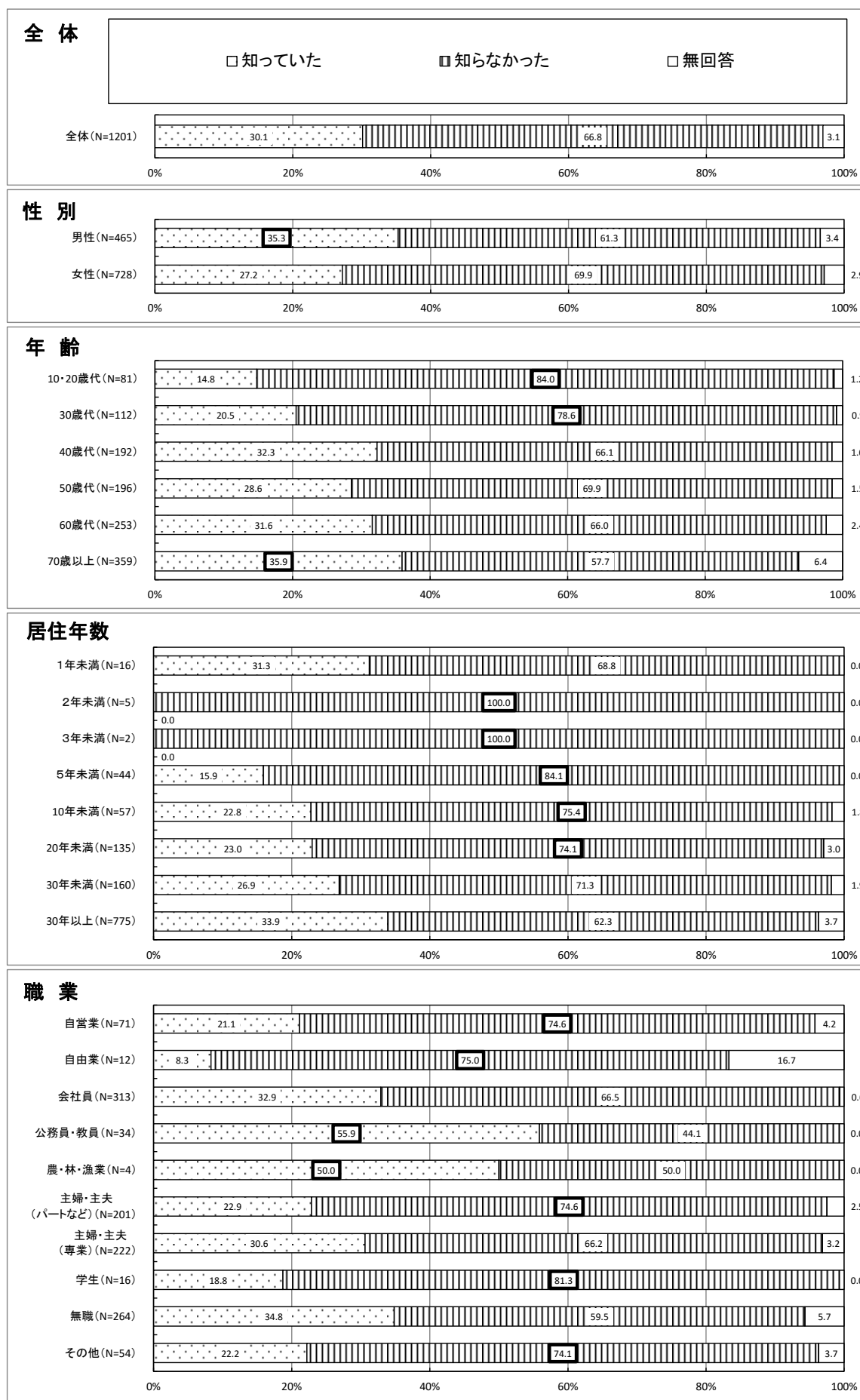
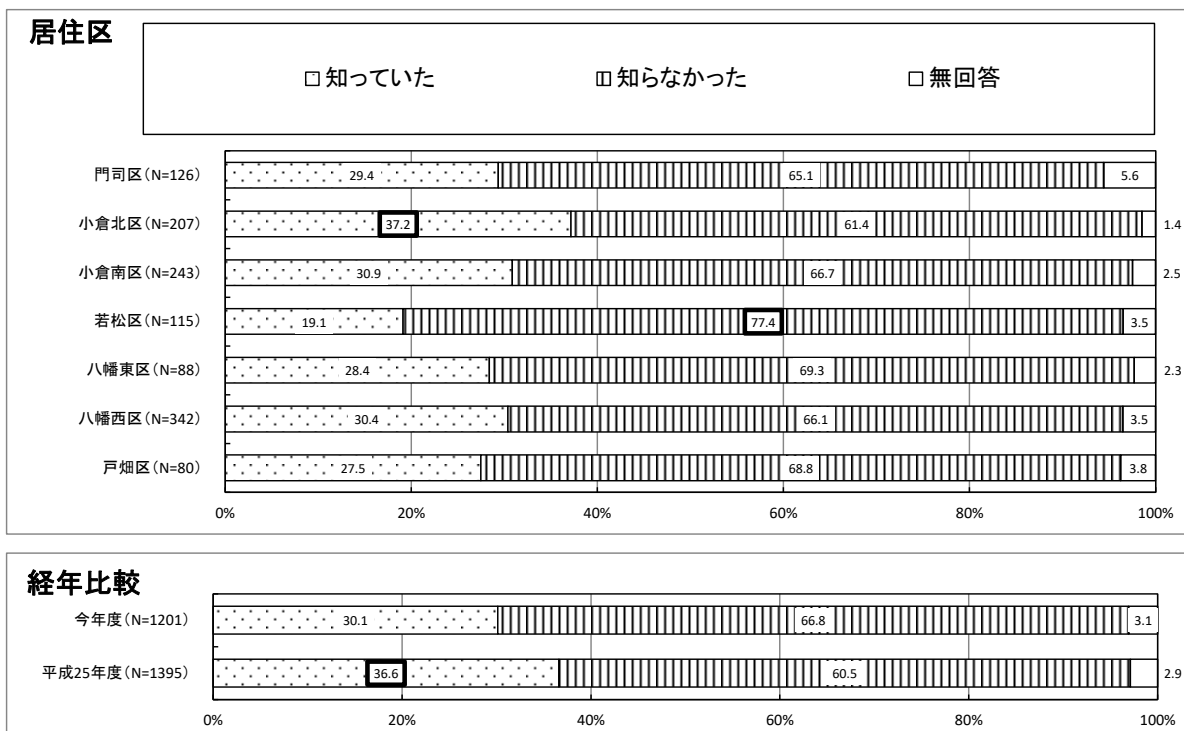


問5 「モラル・マナーアップ関連条例」の認知度について



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

「モラル・マナーアップ関連条例」の認知度について

【全体的傾向】

「モラル・マナーアップ関連条例」を知っているかについて、尋ねてみた。
その結果、「知らなかった」(66.8%)が約7割を占めた。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「知っていた」は、男性(35.3%)が、女性(27.2%)を上回った。
- ◇ 年齢別では、「知っていた」が最も多かったのは70歳以上(35.9%)で、次いで40歳代(32.3%)、60歳代(31.6%)と続き、これらの年齢層で3割を上回った。一方で、少なかったのは10・20歳代(14.8%)、30歳代(20.5%)で、若年層で少ない傾向が見られた。
- ◇ 居住年数別では、「知っていた」が最も多かったのは30年以上(33.9%)で、次いで1年未満(31.3%)と続き、これらの層は3割を上回った。一方、最も少なかったのは5年未満(15.9%)で、唯一2割を下回った。
- ◇ 職業別では、「知っていた」は公務員・教員(55.9%)が最も多く、唯一5割を上回った。次いで無職(34.8%)、会社員(32.9%)と続いた。最も少なかったのは、自由業(8.3%)で唯一1割を下回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「知っていた」が最も多かったのは小倉北区(37.2%)で、次いで小倉南区(30.9%)、八幡西区(30.4%)と続き、これらの居住区は3割を上回った。最も少なかったのは、若松区(19.1%)で、唯一2割を下回った。

【経年比較】

今年度の調査結果を、平成25年度調査結果と比較したところ、「知っていた」は、今年度(30.1%)が平成25年度(36.6%)を6.5ポイント下回った。一方で「知らなかった」は、今年度(66.8%)

が平成 25 年度（60.5%）を 6.3 ポイント上回ったことから、「モラル・マナーアップ関連条例」の認知度が低下していることが見受けられる。

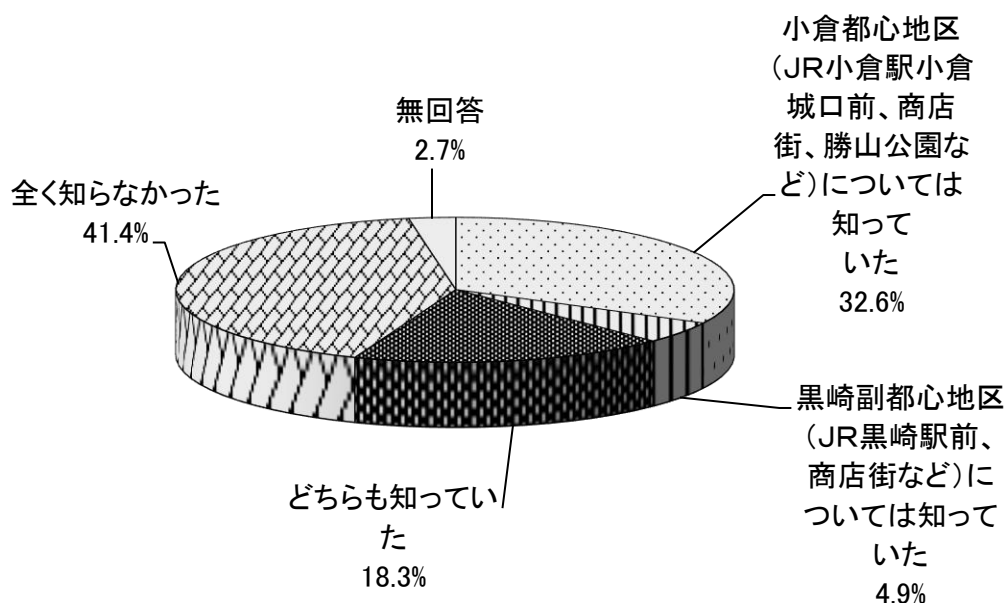
(6) 「迷惑行為防止重点地区」の認知度

問6 「路上喫煙」や「ごみのポイ捨て」などの迷惑行為を行った場合、条例に基づき過料1,000円が徴収される「迷惑行為防止重点地区」についてご存知でしたか。次の中から1つだけ選んでください。

N : 1,201人

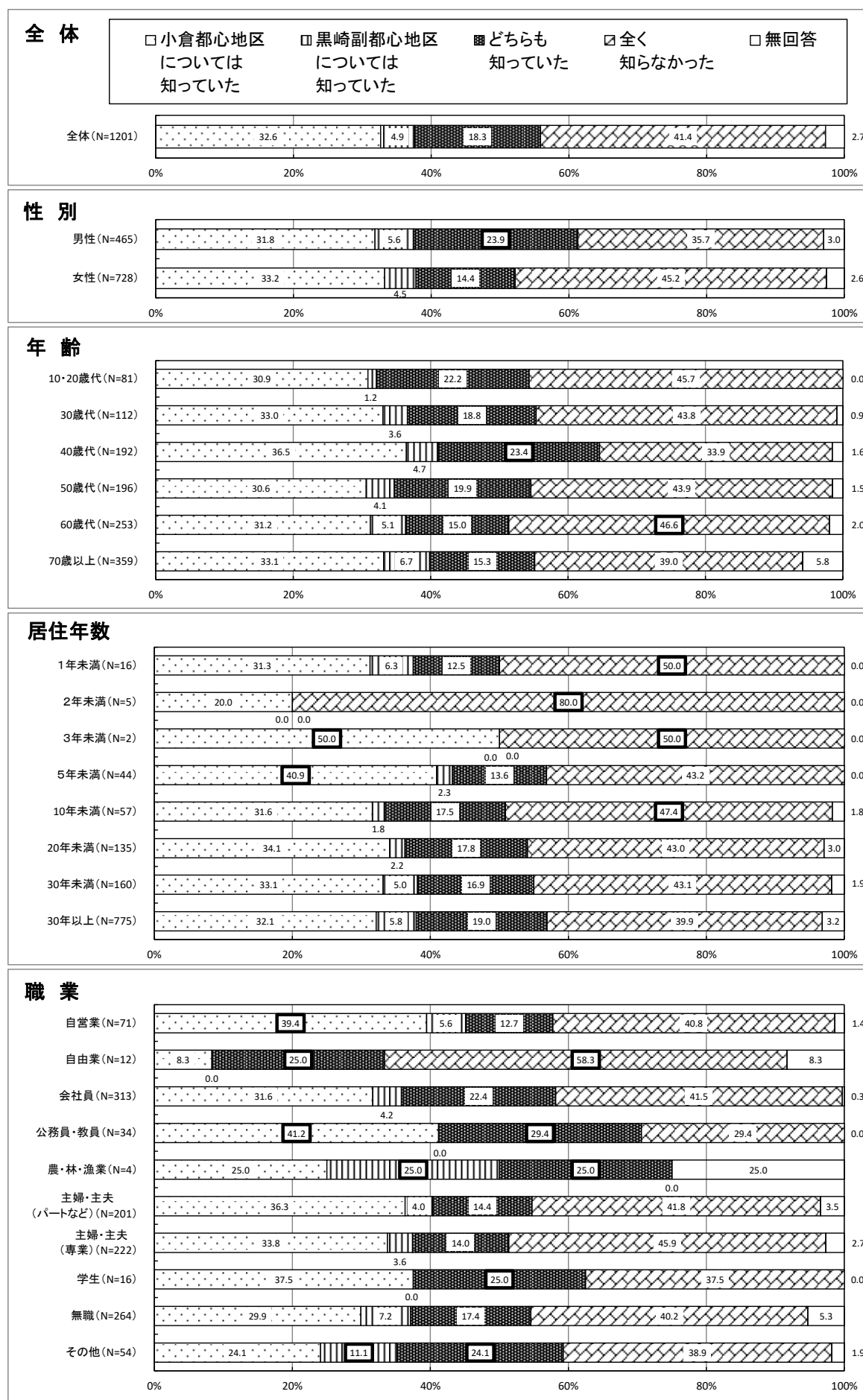
	項目	回答数(人)	割合(%)
1	小倉都心地区(JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など)については知っていた	392	32.6
2	黒崎副都心地区(JR黒崎駅前、商店街など)については知っていた	59	4.9
3	どちらも知っていた	220	18.3
4	全く知らなかった	497	41.4
	無回答	33	2.7

◇ 3割強の市民が、「小倉都心地区(JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など)については知っていた」と回答した。

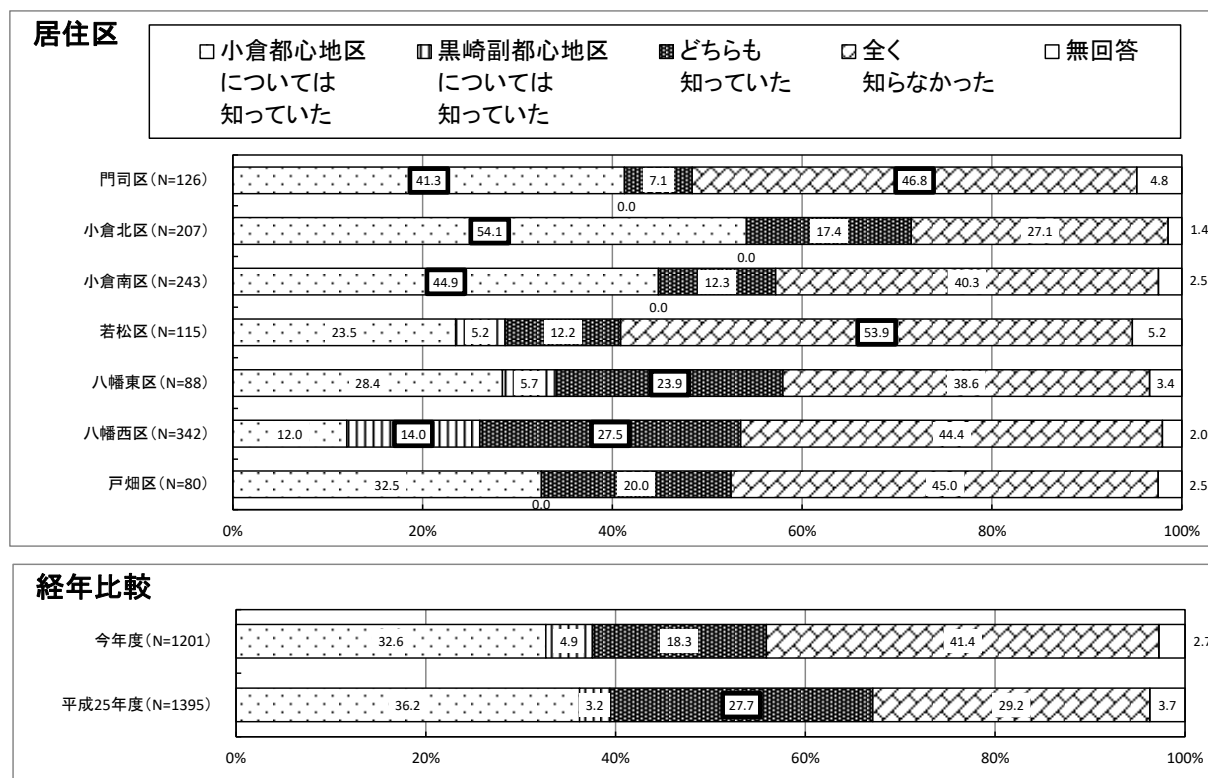


- 小倉都心地区(JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など)については知っていた
- ▣ 黒崎副都心地区(JR黒崎駅前、商店街など)については知っていた
- どちらも知っていた
- ▤ 全く知らなかった
- 無回答

問6 「迷惑行為防止重点地区」の認知度



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

「迷惑行為防止重点地区」の認知度

【全体的傾向】

「迷惑行為防止重点地区」について、知っているか尋ねてみた。

最も多かったのが、「全く知らなかった」(41.4%)だった。次いで「小倉都心地区(JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など)については知っていた」(32.6%)、「どちらも知っていた」(18.3%)と続いた。「黒崎副都心地区(JR黒崎駅前、商店街など)については知っていた」は、4.9%であり、小倉都心地区と比較すると27.7ポイント下回り、認知度に大きな差が見られた。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「全く知らなかった」は、女性(45.2%)が男性(35.7%)を9.5ポイント上回り、女性の認知度が低いことが分かった。「小倉都心地区(JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など)については知っていた」は、女性(33.2%)が男性(31.8%)を1.4ポイント上回った。
- ◇ 年齢別では、「全く知らなかった」は、60歳代(46.6%)で最も多かった。最も少ないのは40歳代(33.9%)で、次いで70歳以上(39.0%)と続き、これらの年齢層では4割を下回った。「小倉都心地区(JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など)については知っていた」は40歳代(36.5%)が最も多かった。最も少ないのは50歳代(30.6%)で、最も多い40歳代との差は5.9ポイントと、年齢層による大きな差は見られず全ての年齢層で3割を上回った。
- ◇ 居住年数別では、「全く知らなかった」は、最も多かったのは1年未満(50.0%)で、最も少なかった30年以上(39.9%)を除く全ての居住年数層で4割を上回った。「小倉都心地区(JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など)については知っていた」は5年未満(40.9%)で最も多く、次いで20年未満(34.1%)、30年未満(33.1%)の順で続いた。

◇ 職業別では、「全く知らなかった」は、自由業（58.3%）が最も多く、次いで主婦・主夫（専業）（45.9%）、主婦・主夫（パートなど）（41.8%）と続いた。最も低かった公務員・教員（29.4%）は、唯一3割を下回った。「小倉都心地区（JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など）については知っていた」が最も多かったのは、公務員・教員（41.2%）で、唯一4割を上回り、次いで自営業（39.4%）が続いた。一方、最も少なかったのは自由業（8.3%）で、唯一1割を下回った。

◇ 居住区を行政区別に見ると、「全く知らなかった」は、若松区（53.9%）が最も多く、唯一5割を上回った。一方、最も少なかったのは小倉北区（27.1%）で、次いで八幡東区（38.6%）と続いた。「小倉都心地区（JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など）については知っていた」が多かったのは、地域柄、小倉北区（54.1%）と小倉南区（44.9%）が多かった。最も少ないのは、八幡西区（12.0%）で、最も多い小倉北区との差は42.1ポイントと、居住区によって大きな差が見られた。

【 経 年 比 較 】

今年度の調査結果を、平成25年度調査結果と比較したところ、「全く知らなかった」は、今年度（41.4%）が平成25年度（29.2%）を12.2ポイントと大きく上回った。「小倉都心地区（JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など）については知っていた」は、今年度（32.6%）が平成25年度（36.2%）を3.6ポイント下回った。「どちらも知っていた」は、今年度（18.3%）が平成25年度（27.7%）を9.4ポイント下回った。このことから、「迷惑行為防止重点地区」の認知度が低下していることが見受けられる。

(6) - 1 「迷惑行為防止重点地区」における迷惑行為の現状

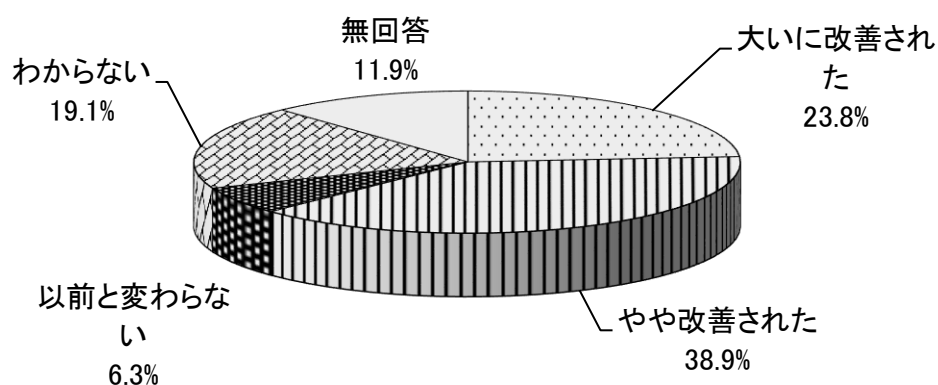
副問 6 - 1 4 「全く知らなかった」以外の回答をした方におたずねします。
迷惑行為防止重点地区における迷惑行為の現状をどう思いますか。地区ごとの該当欄に1つつつ○をつけてください。

①小倉都心地区

N : 671 人

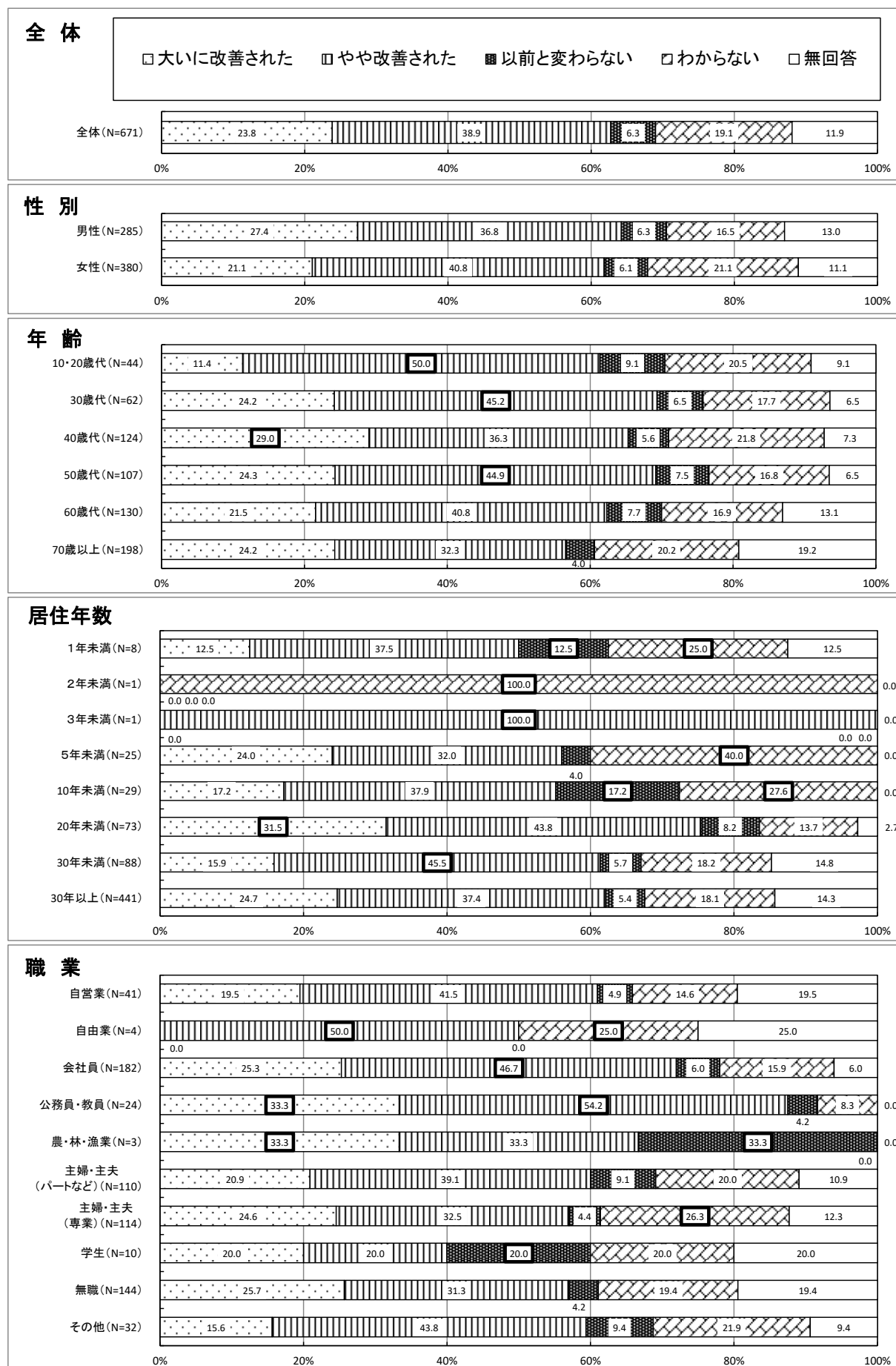
項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 大いに改善された	160	23.8
2 やや改善された	261	38.9
3 以前と変わらない	42	6.3
4 わからない	128	19.1
無回答	80	11.9

- ◇ 迷惑行為防止重点地区を知っている市民の4割弱が、「小倉都心地区」の迷惑行為は「やや改善された」と感じている。
- ◇ 「大いに改善された」(23.8%)と「やや改善された」(38.9%)を合わせると、62.7%となり、迷惑行為防止重点地区を知っている市民の6割が『改善された』と感じている。

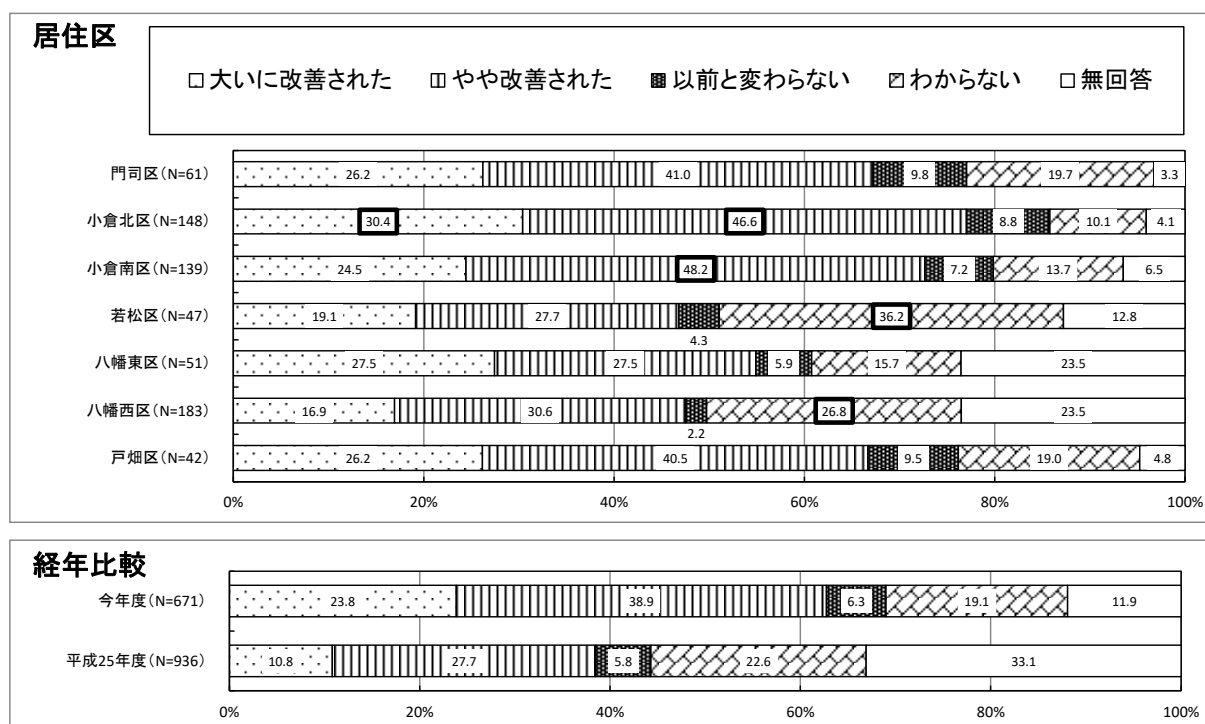


□大いに改善された □やや改善された ■以前と変わらない □わからない □無回答

副問 6－1 「迷惑行為防止重点地区」における迷惑行為の現状 ①小倉都心地区



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

「迷惑行為防止重点地区」における迷惑行為の現状 ①小倉都心地区

【全体的傾向】

この設問では、「迷惑行為防止重点地区」を1つでも知っている人に、「小倉都心地区」の迷惑行為の現状を尋ねてみた。

最も多かったのが、「やや改善された」(38.9%)で、次いで「大いに改善された」(23.8%)、「わからない」(19.1%)の順になった。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男性・女性共に「やや改善された」が最も多く、女性(40.8%)が男性(36.8%)を4.0ポイント上回った。
- ◇ 年齢別では、「やや改善された」が最も多かったのは10・20歳代(50.0%)で、次いで30歳代(45.2%)、50歳代(44.9%)と続いた。「大いに改善された」は、40歳代(29.0%)が最も多かった。一方、「わからない」が最も多かったのは40歳代(21.8%)で、最も少なかった50歳代(16.8%)との差は5.0%と年齢層で大きな差は見られなかった。
- ◇ 居住年数別では、サンプル数が10未満の1年未満、2年未満、3年未満はコメントで触れないこととする。「やや改善された」が最も多かったのは、30年未満(45.5%)で、次いで20年未満(43.8%)が続き、これらの居住年数層で4割を上回った。「大いに改善された」は、20年未満(31.5%)が最も多く、唯一3割を上回った。一方で「わからない」は、5年未満(40.0%)、10年未満(27.6%)の順に多く、居住年数が浅い層ほど多い傾向にあった。
- ◇ 職業別では、サンプル数が10人未満だった自由業、農・林・漁業については、コメントでは触れないこととする。「やや改善された」が最も多かったのは、公務員・教員(54.2%)で、次いで会社員(46.7%)が続いた。「大いに改善された」も、公務員・教員(33.3%)が最も多かった。一方で「わからない」は、主婦・主夫(専業)(26.3%)で最も多く、次いで主婦・主夫

(パートなど) および学生 (共に 20.0%) が続いた。

- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「やや改善された」は、小倉南区 (48.2%) で最も多く、次いで小倉北区 (46.6%)、門司区 (41.0%)、戸畑区 (40.5%) と続き、これら 4 区は 4 割を上回った。「大いに改善された」は、小倉北区 (30.4%)、八幡東区 (27.5%) の順に多かった。「わからない」は、若松区 (36.2%) が最も多く、次いで八幡西区 (26.8%) が続いた。

【 経 年 比 較 】

今年度の調査結果を、平成 25 年度調査結果と比較したところ、「やや改善された」は、今年度 (38.9%) が平成 25 年度 (27.7%) を 11.2 ポイントと大きく上回った。また「大いに改善された」も、今年度 (23.8%) が平成 25 年度 (10.8%) を 13.0 ポイントと大きく上回った。一方「わからない」は、今年度 (19.1%) が平成 25 年度 (22.6%) を 3.5 ポイント下回った。その結果、「大いに改善された」と「やや改善された」を合わせた『改善された』は平成 25 年度 (38.5%) を今年度 (62.7%) が 24.2 ポイントと大きく上回った。このことから、小倉都心地区においては、改善傾向にあることが見受けられる。

(6) - 1 「迷惑行為防止重点地区」における迷惑行為の現状

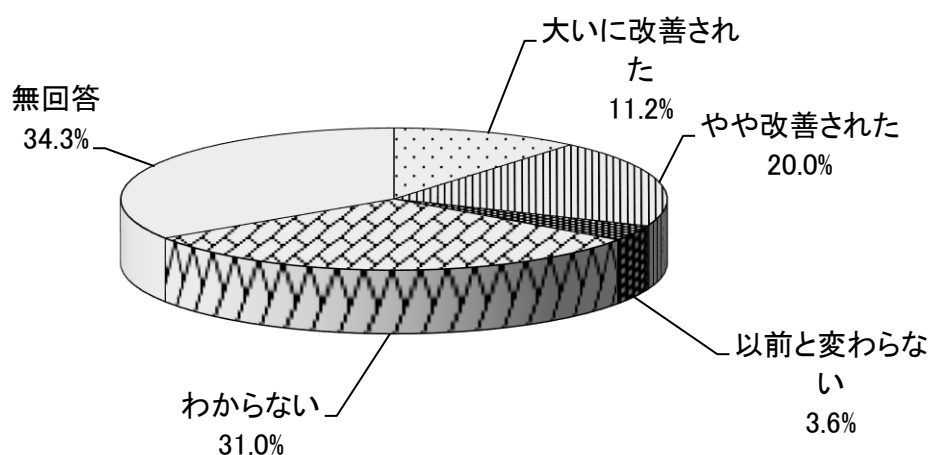
副問 6 - 1 4 「全く知らなかった」以外の回答をした方におたずねします。
迷惑行為防止重点地区における迷惑行為の現状をどう思いますか。地区ごとの該当欄に1つずつ○をつけてください。

②黒崎副都心地区

N : 671 人

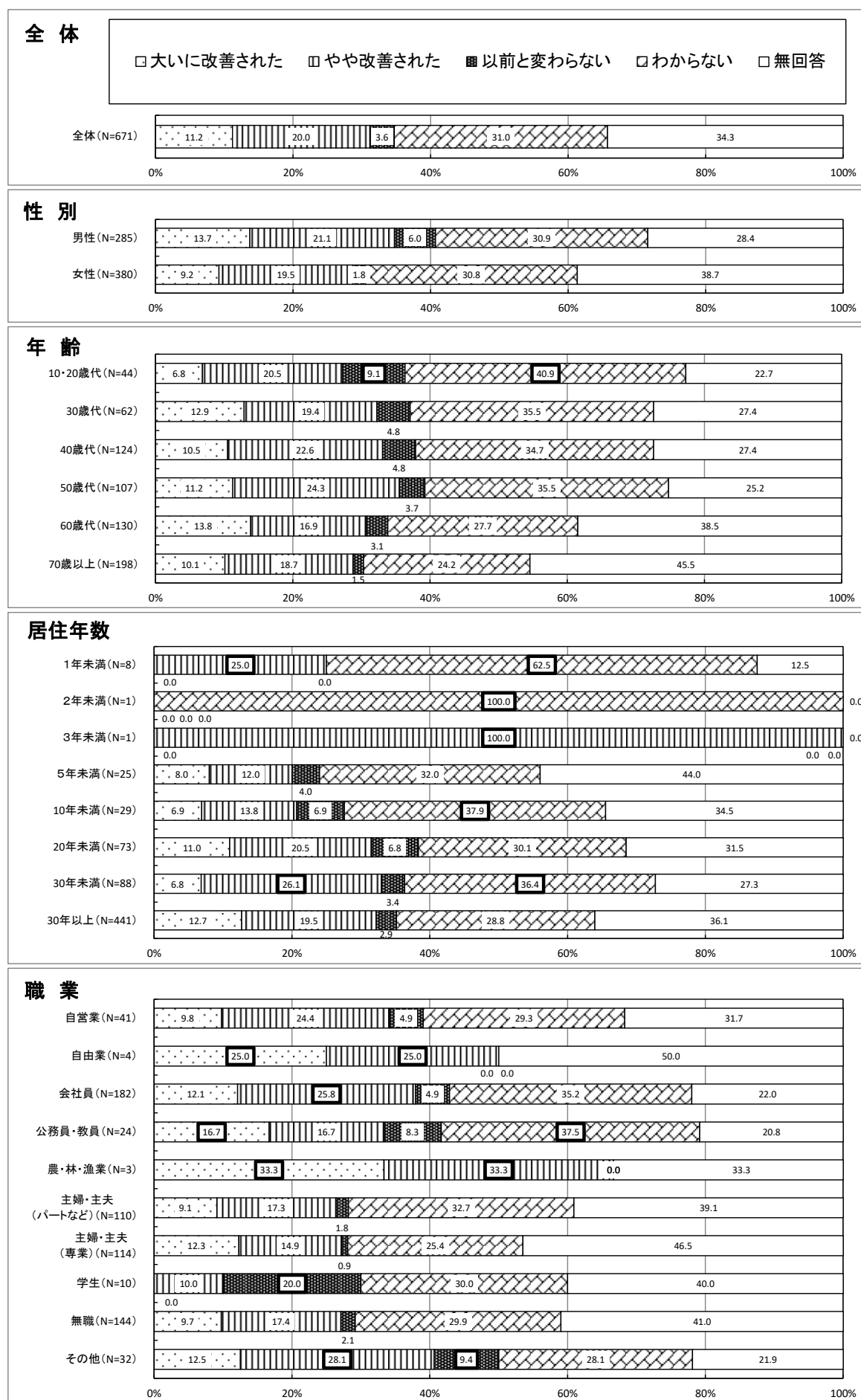
項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 大いに改善された	75	11.2
2 やや改善された	134	20.0
3 以前と変わらない	24	3.6
4 わからない	208	31.0
無回答	230	34.3

- ◇ 迷惑行為防止重点地区を知っている市民の約3割が、「黒崎副都心地区」の迷惑行為の現状が「わからない」と回答。
- ◇ 「大いに改善された」(11.2%)と「やや改善された」(20.0%)を合わせると、31.2%となり、迷惑行為防止重点地区を知っている市民の約3割が『改善された』と感じている。



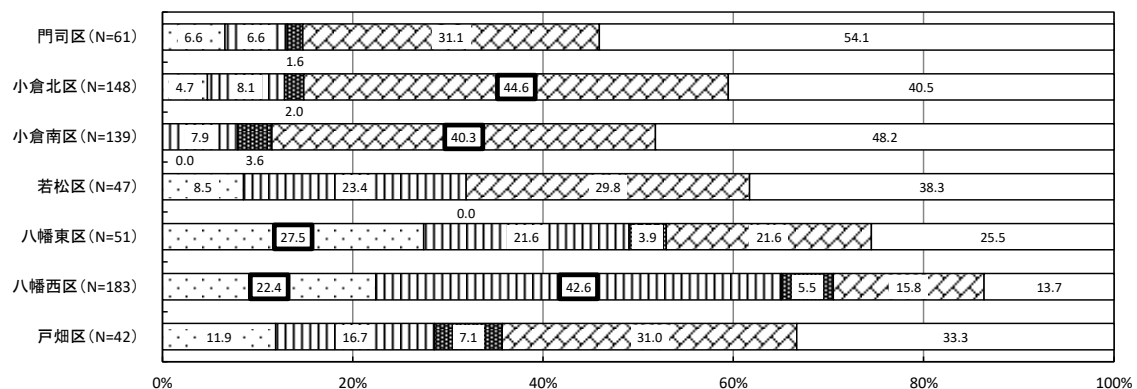
□大いに改善された □やや改善された ■以前と変わらない □わからない □無回答

副問 6－1 「迷惑行為防止重点地区」における迷惑行為の現状 ②黒崎副都心地区

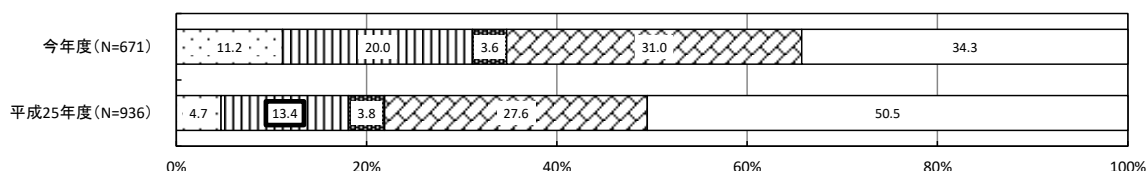


居住区

□大いに改善された □やや改善された ■以前と変わらない □わからない □無回答



経年比較



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

「迷惑行為防止重点地区」における迷惑行為の現状 ②黒崎副都心地区

【全体的傾向】

同じく、「迷惑行為防止重点地区」を1つでも知っている人に、「黒崎副都心地区」の迷惑行為の現状を尋ねてみた。

最も多かったのが、「わからない」(31.0%)であり、次いで「やや改善された」(20.0%)、「大いに改善された」(11.2%)の順になった。「大いに改善された」と「やや改善された」の合計は31.2%となり、小倉都心地区(62.7%)との差は31.5ポイントであった。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男性・女性共に「わからない」(男性30.9%、女性30.8%)が最も多かった。次いでやや改善された(男性21.1%、女性19.5%)が続き、性別による差はあまり見られなかった。
- ◇ 年齢別では、全ての年代で「わからない」が最も多く、10・20歳代(40.9%)で唯一4割を上回った。「やや改善された」は、50歳代(24.3%)が最も多く、次いで40歳代(22.6%)、10・20歳代(20.5%)の順となった。「大いに改善された」は、60歳以上(13.8%)が最も多く、一方で10・20歳代(6.8%)が最も少ないものの、その差は7.0ポイントと年齢層による大きな差は見られなかった。
- ◇ 居住年数別では、サンプル数が10人未満だった1年未満、2年未満、3年未満についてはコメントでは触れないことにする。全ての居住年数層で「わからない」が最も多く、最も多かった10年未満(37.9%)と30年未満(36.4%)が3割を上回った。「やや改善された」は、最も多い30年未満(26.1%)に次いで20年未満(20.5%)、30年以上(19.5%)の順となり、居

住年数が多いほど高い傾向が見られた。「大いに改善された」は、最も多い30年以上(12.7%)と最も少ない30年未満(6.8%)の差は5.9ポイントであり、居住年数による差はあまり見られなかった。

- ◇ 職業別では、サンプル数が10人未満だった自由業と農・林・漁業については、コメントでは触れないことにする。全ての職業で「わからない」が最も多く、公務員・教員(37.5%)が最も多かった。一方、最も少なかったのは、主婦・主夫(専業)(25.4%)だった。「やや改善された」が最も多かったのは、会社員(25.8%)で次いで自営業(24.4%)と続き、これら2業種で2割を上回った。「大いに改善された」は、公務員・教員(16.7%)が最も多かった。最も少なかったのは学生(0.0%)だった。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、ほとんどの区で「わからない」が最も多く、その中で、小倉北区(44.6%)、小倉南区(40.3%)が4割を上回った。一方、「やや改善された」は、地域柄、八幡西区(42.6%)が突出して多く、次いで若松区(23.4%)、八幡東区(21.6%)と続いた。また「大いに改善された」も同様に、最も多い八幡東区(27.5%)を筆頭に、次いで八幡西区(22.4%)と続き、地域の特色が見られた。

【 経 年 比 較 】

今年度の調査結果を、平成25年度調査結果と比較したところ、「わからない」は、今年度(31.0%)が平成25年度(27.6%)を3.4ポイント上回った。「やや改善された」も今年度(20.0%)が平成25年度(13.4%)を6.6ポイント上回った。また、「大いに改善された」も同様に今年度(11.2%)が平成25年度(4.7%)を6.5ポイント上回った。その結果、「大いに改善された」と「やや改善された」を合わせた『改善された』は平成25年度(18.1%)を今年度(31.2%)が13.1ポイントと大きく上回った。このことから、黒崎副都心地区においても、小倉副都心地区と同じく、改善傾向にあることが見受けられる。

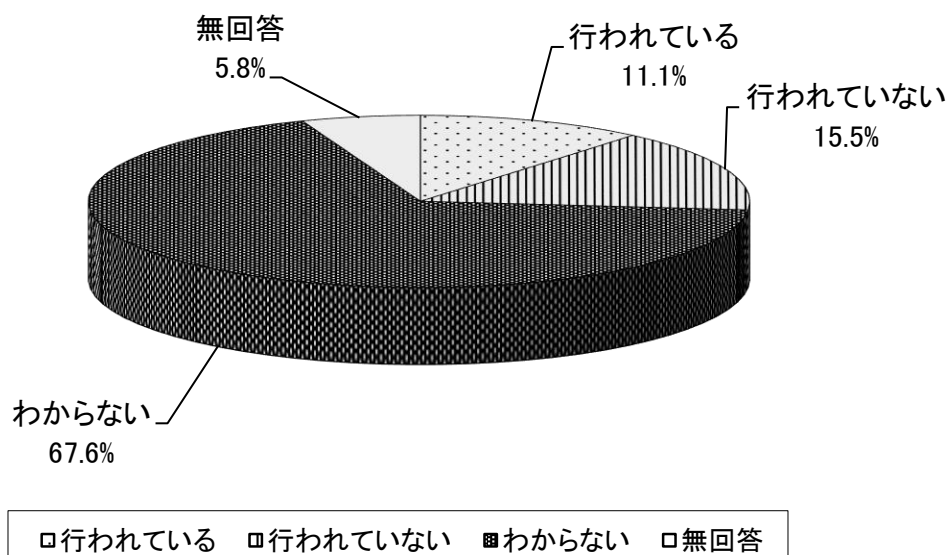
(7) 居住地域における迷惑行為防止活動の有無

問7 あなたのお住まいの地域で、迷惑行為の防止のための活動が行われていますか。次の中から1つだけ選んでください。

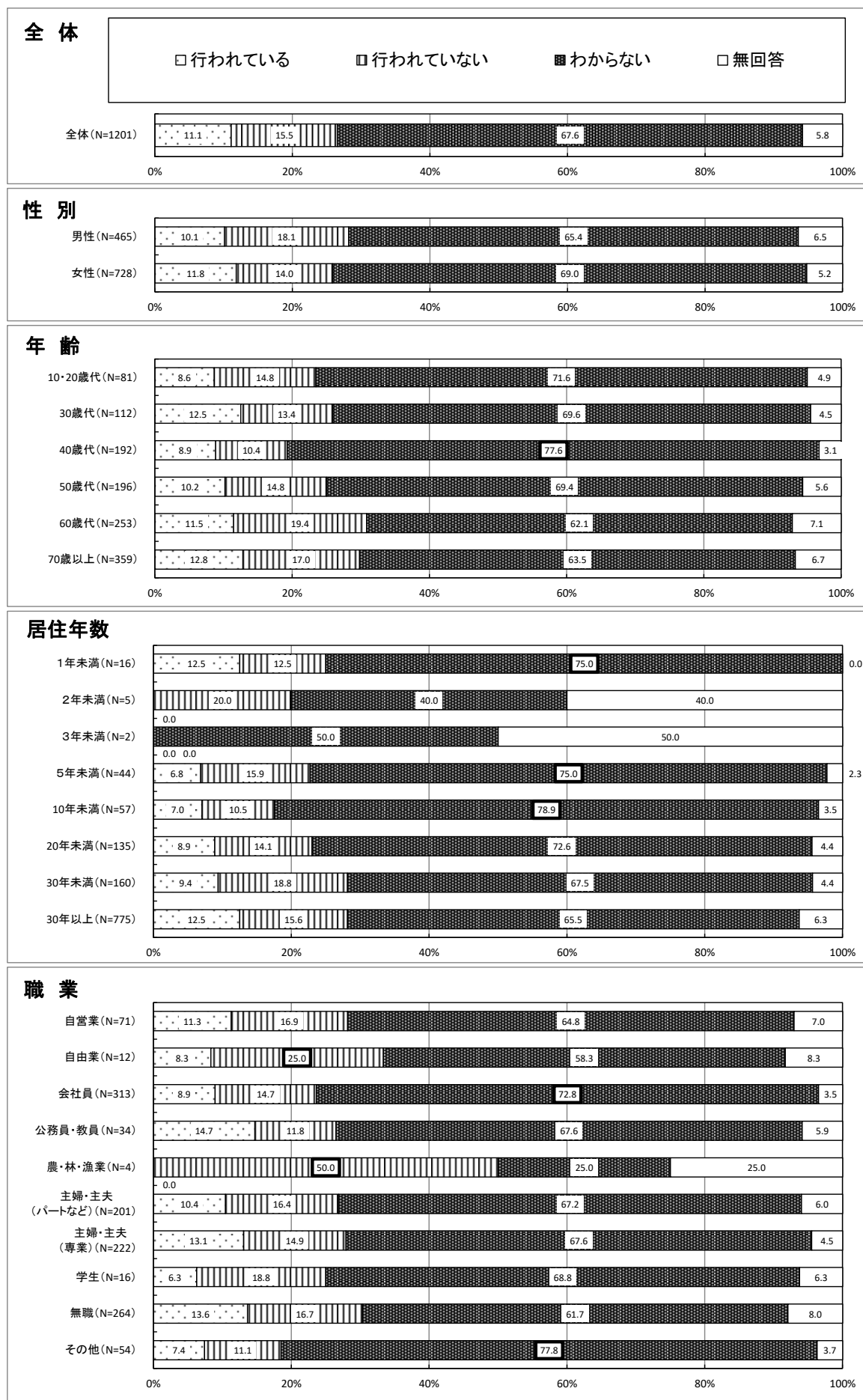
N : 1,201 人

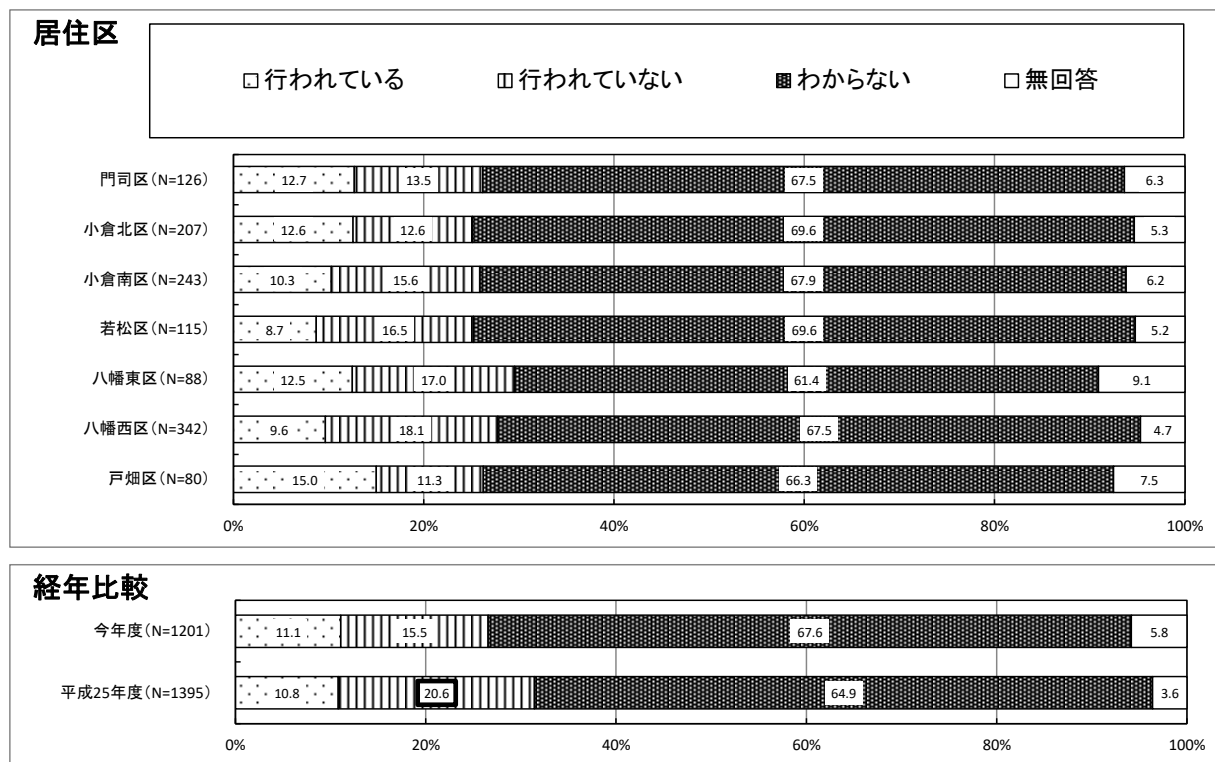
項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 行われている	133	11.1
2 行われていない	186	15.5
3 わからない	812	67.6
無回答	70	5.8

◇ 7割弱（67.6%）の市民が、迷惑行為の防止のための活動が行われているかが「わからない」と回答。



問7 居住地域における迷惑行為防止活動の有無





(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

居住地域における迷惑行為防止活動の有無

【全体的傾向】

この設問では、お住まいの地域で迷惑行為防止のための活動が行われているかを尋ねてみた。

その結果、「わからない」(67.6%)が最も多く、7割弱を占めている。次いで「行われていない」(15.5%)、「行われている」(11.1%)と続いた。このことから、地域での迷惑行為防止のための活動について、全体的に認知度が低いということが見受けられる。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男性・女性共に「わからない」(男性 65.4%、女性 69.0%)が最も多く、女性が男性を3.6ポイント上回った。「行われていない」は、男性(18.1%)が女性(14.0%)を上4.1ポイント上回った。
- ◇ 年齢別では、全ての年齢層で「わからない」が突出して多く、40歳代(77.6%)を筆頭に、次いで10・20歳代(71.6%)と続き、これらの年齢層で7割を上回った。最も少なかったのは60歳代(62.1%)で、全ての年齢層で6割を上回った。「行われていない」が最も多かったのは60歳代(19.4%)で、次いで70歳以上(17.0%)と続き、高齢者層で多い傾向が見られた。
- ◇ 居住年数別でも、全ての層で「わからない」が突出して多く、10年未満(78.9%)を筆頭に、次いで1年未満および5年未満(共に75.0%)、20年未満(72.6%)と続き、これらの層で7割を上回り、比較的居住年数が浅い層で多い傾向にあった。「行われていない」は、30年未満(18.8%)で最も多く、次いで5年未満(15.9%)、30年以上(15.6%)と続いた。
- ◇ 職業別でも、全ての層で「わからない」が突出して多く、会社員(72.8%)は7割を上回った。「行われていない」は、自由業(25.0%)で最も多く、2割を上回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、全ての区で「わからない」が最も多く、最も多い小倉北区およ

び若松区（共に 69.6%）と最も少ない八幡東区（61.4%）の差は 8.2 ポイントであり、居住区によって大きな差は見られなかった。「行われていない」は、八幡西区（18.1%）で最も多く、次いで八幡東区（17.0%）、若松区（16.5%）と続いた。

【 経 年 比 較 】

今年度の調査結果を、平成 25 年度調査結果と比較したところ、「わからない」は、今年度（67.6%）が平成 25 年度（64.9%）を 2.7 ポイント上回った。「行われていない」は今年度（15.5%）が平成 25 年度（20.6%）を 5.1 ポイント下回った。また、「行われている」は今年度（11.1%）が平成 25 年度（10.8%）を 0.3 ポイント上回った。これら 3 項目の総合順位の変動はなかった。

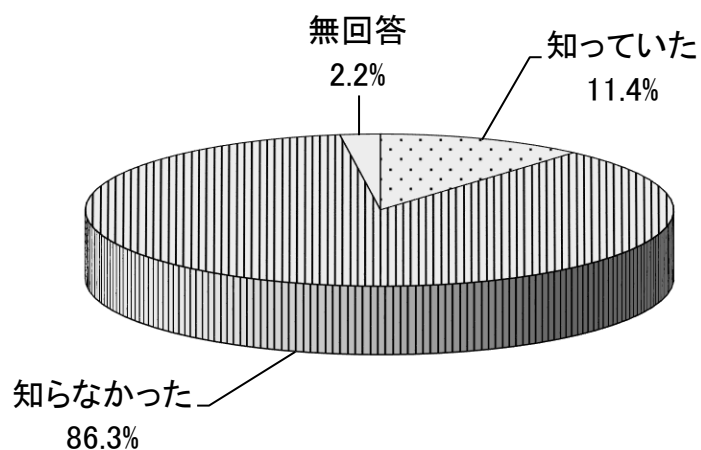
(8) 「迷惑行為防止活動推進地区」の認知度

問8 地域団体による迷惑行為の防止に向けた活動を市が支援する「迷惑行為防止活動推進地区」として、市内に5地区（門司港レトロ地区、若松南海岸地区、下曽根駅南側大通り地区、八幡駅前地区、戸畑駅前浅生地区）を指定していますが、「迷惑行為防止活動推進地区」についてご存知でしたか。

N : 1,201 人

項目	回答数（人）	割合（％）
1 知っていた	137	11.4
2 知らなかった	1,037	86.3
無回答	27	2.2

◇ 9割弱（86.3％）の市民が、「迷惑行為防止活動推進地区」を「知らなかった」と回答。

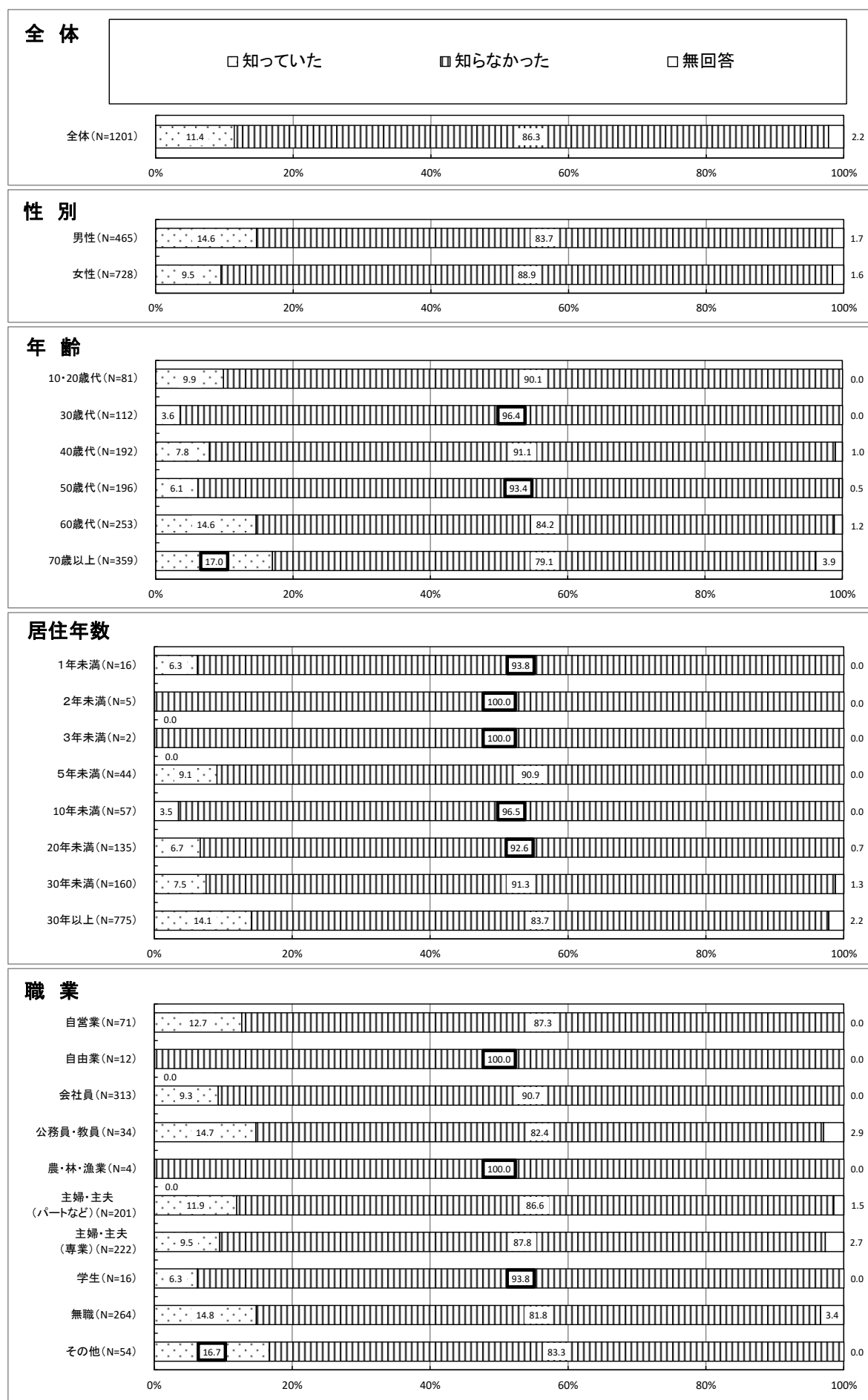


□知っていた

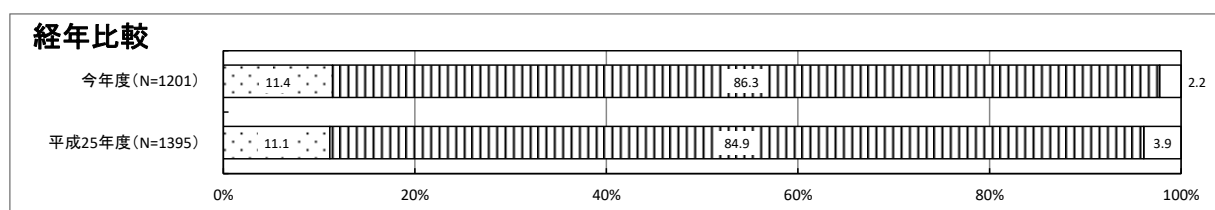
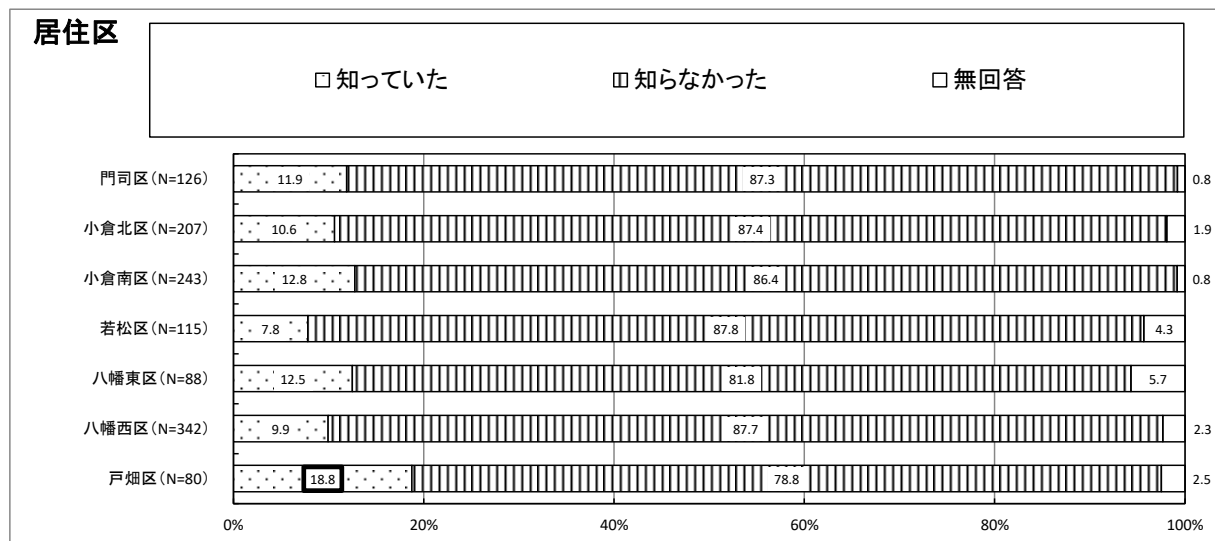
□知らなかった

□無回答

問8 「迷惑行為防止活動推進地区」の認知度



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

「迷惑行為防止活動推進地区」の認知度

【全体的傾向】

この設問では、「迷惑行為防止活動推進地区」について知っているかを尋ねてみた。

その結果、「知らなかった」(86.3%)が9割弱を占めたことから、同地区の認知度が低いことが見受けられる。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「知らなかった」が、男性(83.7%)・女性(88.9%)共に8割を上回り、女性が男性を5.2ポイント上回った。
- ◇ 年齢別では、「知らなかった」は、30歳代(96.4%)、50歳代(93.4%)、10・20歳代(90.1%)、40歳代(91.1%)と続き、これらの層で9割を上回った。最も少なかった70歳以上(79.1%)は、唯一8割を下回った。
- ◇ 居住年数別では、「知らなかった」は、最も多かった10年未満(96.5%)を筆頭に、最も少なかった30年以上(83.7%)を含む全ての層で8割を上回った。
- ◇ 職業別では、「知らなかった」は、自由業(100.0%)が最も多く、次いで学生(93.8%)と続いた。最も少なかった無職(81.8%)も含め、全ての層で8割を上回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「知らなかった」は若松区(87.8%)が最も多く、次いで八幡西区(87.7%)、小倉北区(87.4%)と続いた。最も少なかった戸畑区(78.8%)のみ唯一8割を下回った。

【経年比較】

今年度の調査結果を、平成25年度調査結果と比較したところ、総じて経年による大きな変化

は見られなかった。「知らなかった」は、今年度（86.3%）が平成25年度（84.9%）を1.4ポイント上回った。一方で「知っていた」は、今年度（11.4%）が平成25年度（11.1%）を0.3ポイントとわずかに上回った。

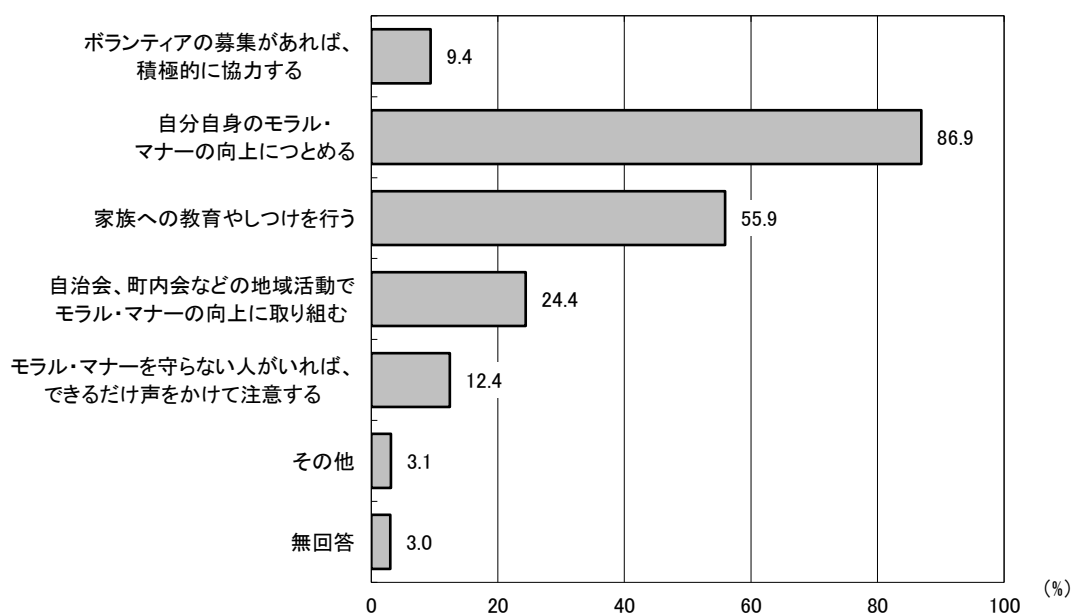
(9) 参加可能なモラル・マナーの向上のための取り組み

問9 モラル・マナーの向上のためには、さまざまな取り組みがあります。あなたなら、どのような取り組みへ参加や協力ができるとお考えですか。次の中からいくつでも選んでください。

N : 1,201 人

項目	回答数（人）	割合（％）
1 ボランティアの募集があれば、積極的に協力する	113	9.4
2 自分自身のモラル・マナーの向上につとめる	1,044	86.9
3 家族への教育やしつけを行う	671	55.9
4 自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む	293	24.4
5 モラル・マナーを守らない人がいれば、できるだけ声をかけて注意する	149	12.4
6 その他	37	3.1
無回答	36	3.0

◇ 参加可能なモラル・マナーの向上のための取り組みは、「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」が9割弱（86.9％）で最多。



問9 あなたが参加可能なモラル・マナーの向上のための取り組みについて

		サンプル数	ボランティアの募集があれば、積極的に協力する	自分自身のモラル・マナーの向上につとめる	家族への教育やしつけを行う	自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む	モラル・マナーを守らない人がいれば、できるだけ声をかけて注意する	その他	無回答	
全体		1,201	9.4	86.9	55.9	24.4	12.4	3.1	3.0	
性別	男性	465	10.3	85.8	49.5	25.6	14.2	3.9	2.8	
	女性	728	8.9	88.5	60.6	23.9	11.4	2.6	2.2	
年齢別	10・20歳代	81	7.4	86.4	58.0	9.9	18.5	1.2	1.2	
	30歳代	112	8.9	86.6	71.4	12.5	8.0	6.3	0.9	
	40歳代	192	10.4	90.1	75.5	18.8	7.3	3.1	1.6	
	50歳代	196	5.1	93.9	65.3	23.5	9.7	2.0	0.5	
	60歳代	253	12.3	85.4	51.0	31.6	13.4	3.2	2.4	
	70歳以上	359	10.0	84.4	39.6	30.4	16.2	3.1	4.7	
居住年数別	1年未満	16	12.5	93.8	62.5	18.8	25.0	0.0	0.0	
	2年未満	5	0.0	100.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	
	3年未満	2	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
	5年未満	44	11.4	84.1	65.9	18.2	9.1	11.4	0.0	
	10年未満	57	5.3	91.2	64.9	21.1	8.8	1.8	0.0	
	20年未満	135	13.3	83.0	57.0	18.5	11.9	1.5	3.0	
	30年未満	160	6.9	88.8	62.5	23.8	10.6	3.1	1.3	
	30年以上	775	9.4	87.7	53.4	26.6	13.2	3.1	3.0	
職業別	自営業	71	5.6	91.5	53.5	22.5	11.3	2.8	4.2	
	自由業	12	0.0	91.7	66.7	25.0	16.7	0.0	0.0	
	会社員	313	8.3	90.1	61.0	18.8	11.5	2.9	0.3	
	公務員・教員	34	8.8	91.2	70.6	14.7	2.9	0.0	0.0	
	農・林・漁業	4	0.0	75.0	100.0	25.0	0.0	0.0	0.0	
	主婦・主夫（パートなど）	201	12.9	88.1	69.2	23.9	8.5	1.5	2.0	
	主婦・主夫（専業）	222	9.5	86.0	61.3	33.3	10.8	3.2	3.2	
	学生	16	6.3	87.5	62.5	18.8	25.0	0.0	0.0	
	無職	264	10.6	83.7	35.2	26.9	19.3	3.8	4.2	
	その他	54	7.4	87.0	51.9	24.1	11.1	9.3	3.7	
居住区別	行政区分	門司区	126	5.6	89.7	54.0	19.0	13.5	0.8	3.2
		小倉北区	207	8.2	89.4	59.4	23.7	12.1	3.4	1.4
		小倉南区	243	9.5	87.7	56.4	23.9	11.1	2.9	2.1
		若松区	115	10.4	84.3	57.4	30.4	19.1	3.5	5.2
		八幡東区	88	9.1	81.8	54.5	26.1	8.0	1.1	5.7
		八幡西区	342	10.5	85.7	54.7	26.9	11.4	4.7	2.6
		戸畑区	80	12.5	88.8	52.5	15.0	15.0	1.3	5.0
経年比較										
平成25年度 全体		1,395	10.6	84.8	54.3	26.7	14.1	2.9	4.1	

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

【全体的傾向】

この設問では、モラル・マナーの向上のために参加や協力ができる取り組みについて尋ねてみた。

その結果、「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」(86.9%)が最も多く、9割弱だった。次いで「家族への教育やしつけを行う」(55.9%)、「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」(24.4%)の順となった。

なお、「その他」(37人)には、以下の取り組みが寄せられた。

- 抜本的な解決につながる活動には積極的に参加したい。
- 公共のゴミ箱を設置、管理。
- ごみ出しのついでに道路に落ちているたばこや落ち葉を拾い、ごみ袋のすき間に入れて出す。
- 自分自身がマナーの悪い人にならないように心がける。
- 子供達にマナーのどこが悪いのか、何がいけないのかをくり返し教える。

【属性別にみた傾向】

◇ 性別では、「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」は女性(88.5%)が男性(85.8%)を2.7ポイント上回った。「家族への教育やしつけを行う」も、女性(60.6%)が男性(49.5%)を大きく11.1ポイント上回った。「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」は男性(25.6%)が女性(23.9%)を1.7ポイント上回った。

◇ 年齢別では、「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」は、50歳代(93.9%)で最も多く、次いで40歳代(90.1%)と続き、これらの層で9割を上回った。「家族への教育やしつけを行う」は、40歳代(75.5%)で最も多く、次いで30歳代(71.4%)と続き、子育て世代を中心に多い傾向にあった。最も少ないのは70歳以上(39.6%)で唯一4割を下回った。「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」は、60歳代(31.6%)で最も多く、次いで70歳以上(30.4%)が続いた。10・20歳代(9.9%)が最も少なく、年齢層が上がるにつれ割合が多くなる傾向が見受けられた。

◇ 居住年数別では、「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」は、1年未満(93.8%)で最も多く、次いで10年未満(91.2%)と続き、これらの層で9割を上回った。一方で最も少なかったのは、20年未満(83.0%)だった。「家族への教育やしつけを行う」は、5年未満(65.9%)が最も多く、次いで10年未満(64.9%)と続いた。最も少なかったのは30年以上(53.4%)で、次いで20年未満(57.0%)と続き、これらの層で6割を下回った。「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」は、最も多かった30年以上(26.6%)と最も少なかった5年未満(18.2%)の差は8.4ポイントとなり、居住年数による差は見られなかった。

◇ 職業別では、「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」は、自由業(91.7%)が最も多く、次いで自営業(91.5%)、公務員・教員(91.2%)、会社員(90.1%)が続いた。最も少ない無職(83.7%)も含む全ての層で8割を上回った。「家族への教育やしつけを行う」は、公務員・教員(70.6%)が最も多く、次いで主婦・主夫(パートなど)(69.2%)、自由業(66.7%)と続いた。「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」は、主婦・主夫(専業)(33.3%)が最も多く、唯一3割を上回った。一方、公務員・教員(14.7%)が最も

少なく、次いで会社員および学生（18.8%）と続き、これらの層は2割を下回った。

- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」は、門司区（89.7%）で最も多く、小倉北区（89.4%）、戸畑区（88.8%）と続いた。最も少ない八幡東区（81.8%）も含め全ての区で8割を上回った。「家族への教育やしつけを行う」は、小倉北区（59.4%）で最も多く、次いで若松区（57.4%）、小倉南区（56.4%）と続いた。最も少なかったのは戸畑区（52.5%）で、最も多い小倉北区との差は6.9ポイントと、居住区による大きな差は見られなかった。「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」は、最も多い若松区（30.4%）が唯一3割を上回った。一方で最も少ないのは戸畑区（15.0%）で、次いで門司区（19.0%）と続き、これら2区で2割を下回った。

【 経 年 比 較 】

今年度の調査結果を、平成 25 年度調査結果と比較したところ、総じて経年による大きな変化は見られなかった。総合順位 1 位の「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」は今年度（86.9%）が平成 25 年度（84.8%）を 2.1 ポイント上回った。総合順位 2 位の「家族への教育やしつけを行う」は今年度（55.9%）が平成 25 年度（54.3%）を 1.6 ポイント上回った。総合順位 3 位の「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」は今年度（24.4%）が平成 25 年度（26.7%）を 2.3 ポイント下回った。

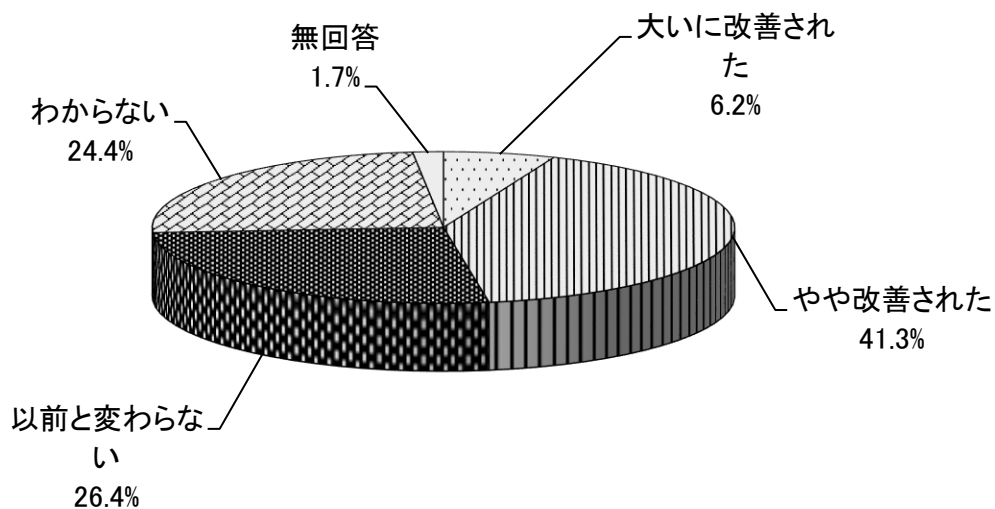
(10) 居住地域における迷惑行為の状況

問 10 あなたのお住まいの地域における迷惑行為の状況は変わりましたか。次の中から1つだけ選んでください。

N : 1,201 人

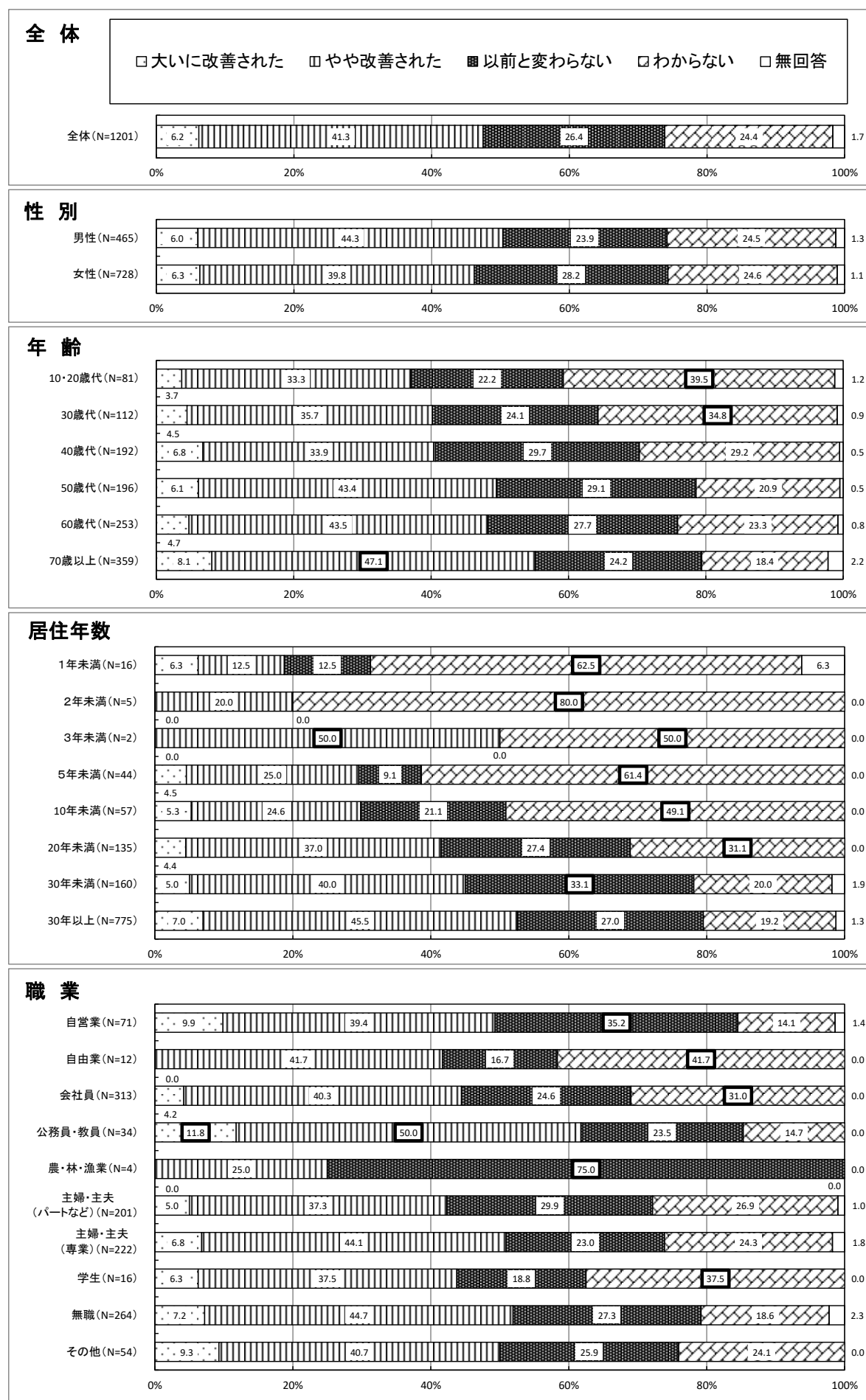
項目	回答数（人）	割合（％）
1 大いに改善された	74	6.2
2 やや改善された	496	41.3
3 以前と変わらない	317	26.4
4 わからない	293	24.4
無回答	21	1.7

◇ 迷惑行為の状況は「やや改善された」が約4割(41.3%)で最多。「大いに改善された」(6.2%)との合計は、47.5%となり、5割弱の市民が『改善された』と回答。

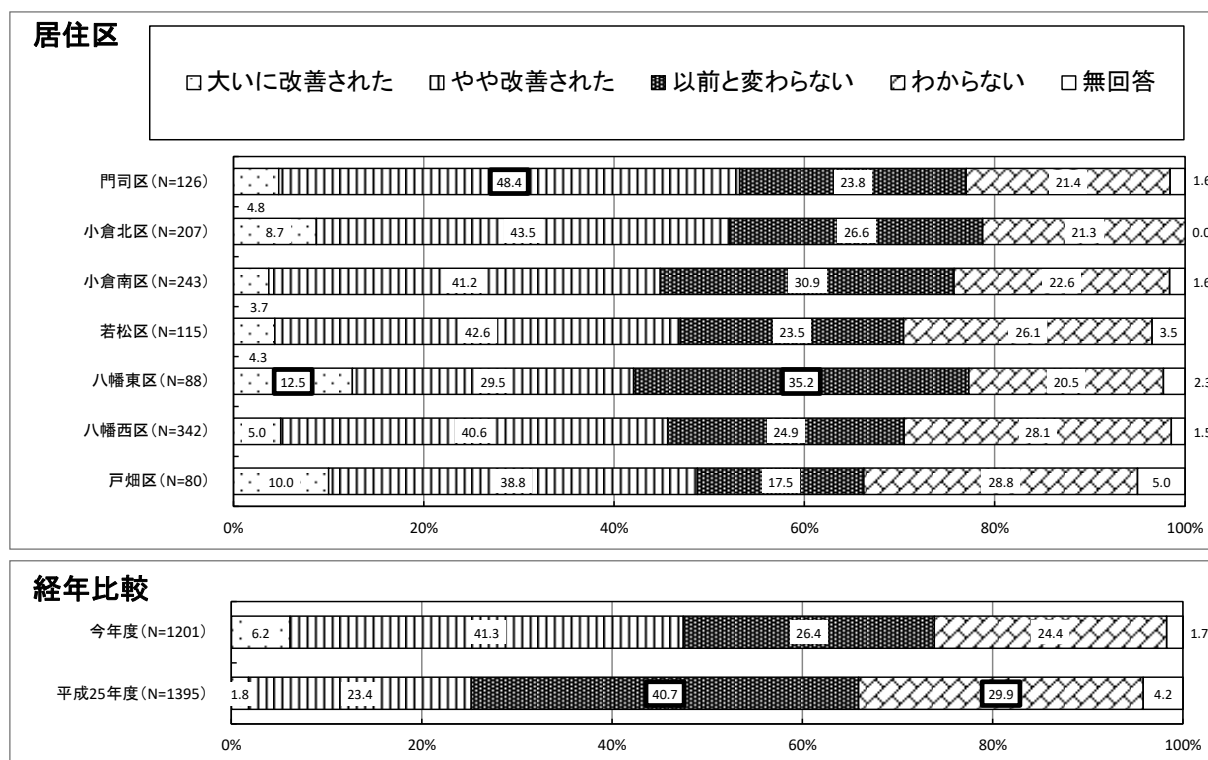


□大いに改善された □やや改善された ■以前と変わらない ▨わからない □無回答

問 10 居住地域における迷惑行為の状況



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

居住地域における迷惑行為の状況

【全体的傾向】

この設問では、お住まいの地域における迷惑行為の状況について尋ねてみた。

その結果、「やや改善された」(41.3%)が最も多く、約4割を占めた。次いで「以前と変わらない」(26.4%)、「わからない」(24.4%)となっている。「大いに改善された」(6.2%)と「やや改善された」(41.3%)を合わせると47.5%となり、5割弱の市民が『改善された』と回答した。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男女とも「やや改善された」が最も多く、男性(44.3%)が女性(39.8%)を4.5ポイント上回った。一方で、「以前と変わらない」は、女性(28.2%)が男性(23.9%)を4.3上回った。
- ◇ 年齢別では、10・20歳代を除く全ての年齢層で「やや改善された」が最も多く、70歳以上(47.1%)を筆頭に、次いで60歳代(43.5%)、50歳代(43.4%)と続き、高齢者層の割合が多い傾向が見られた。10・20歳代のみ「わからない」(39.5%)が「やや改善された」(33.3%)を上回った。
- ◇ 居住年数別では、居住年数10年未満までの層では「わからない」が最も多く、1年未満(62.5%)、5年未満(61.4%)と続き、これらの層は6割を上回った。一方、「やや改善された」は、30年以上(45.5%)、30年未満(40.0%)と続き、これらの層において4割を上回った。居住年数を経つほど、「改善された」と感じる割合が高まる傾向が見られた。
- ◇ 職業別では、唯一5割を上回った公務員・教員(50.0%)を筆頭に、全ての職業において「やや改善された」が最も多かった。一方「わからない」は、自由業(41.7%)が最も多く、次いで学生(37.5%)、会社員(31.0%)が続き、これらの層で3割を上回った。

◇ 居住区を行政区別に見ると、門司区（48.4%）を筆頭に、次いで小倉北区（43.5%）、若松区（42.6%）と続き、八幡東区を除く全ての区において「やや改善された」が最も多かった。八幡東区は「以前と変わらない」が 35.2%で最も多かった。

【 経 年 比 較 】

今年度の調査結果を、平成 25 年度調査結果と比較したところ、全体的に改善傾向が見られた。「やや改善された」は、今年度（41.3%）が平成 25 年度（23.4%）を 17.9 ポイントと大幅に上回った。また、「やや改善された」と「大いに改善された」との合計も、今年度（47.5%）が平成 25 年度（25.2%）を 22.3 ポイントと大幅に上回った。一方で「以前と変わらなかった」は、今年度（26.4%）が平成 25 年度（40.7%）を 14.3 ポイントと大幅に下回った。また、「わからない」も、今年度（24.4%）が平成 25 年度（29.9%）を 5.5 ポイント下回った。このことから、居住地域における迷惑行為の状況は改善傾向にあることが見受けられる。

3 まとめ

本調査報告書の冒頭部分「調査の目的」で触れているが、本市では、迷惑行為の防止に向けた施策を総合的かつ計画的に推進していくため、「北九州市迷惑行為のない快適な生活環境の確保に関する条例（基本条例）」を平成 20 年 4 月より施行している。また、同条例に基づき、「北九州市迷惑行為防止基本計画」を策定し、現在は第 2 次計画期間（平成 27 年度～令和元年度）として実施するなど、モラル・マナーアップを通じ、「環境首都にふさわしい、迷惑行為のない、思いやりと優しさにあふれたまち・北九州市」の実現を目指す取り組みを行っている。

そこで、平成 25 年度に引き続き、令和元年度の市民意識調査では「市民のモラル・マナーについて」をテーマとし、更なるモラル・マナーアップ推進に向けた課題を把握し、今後の市政運営の参考とするために本調査を実施した。

調査結果の具体的な内容、詳細についてはすでに指摘したとおりであるが、最後にここで調査結果の簡単な要約を行い本調査の報告を終わることとする。

1. 公共の場での市民のモラル・マナーについて

- 「北九州市迷惑行為のない快適な生活環境の確保に関する条例（基本条例）」では、14 項目の迷惑行為を具体的に示している。公共の場において、以前と比べ低下していると感じる市民のモラルやマナーを、この中から回答してもらったところ、「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」が約 6 割（63.8%）で最も多かった。次いで「迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）」（61.9%）、「飼い犬のふんを放置すること」（54.7%）の順で続き、これらの 3 項目は 5 割を上回った。平成 25 年度との経年比較を行った結果、6.5 ポイントと多少割合が下がったものの、依然として「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」の割合が 63.8%と高く、引き続き対策が必要な課題であると考えられる。
- 以前と比べ低下していると感じる市民のモラルやマナーのうち、特に不快または危険と感じる項目を尋ねたところ、「迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）」（44.4%）が最も多く、唯一 4 割を上回った。次いで「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」（37.5%）、「飼い犬のふんを放置すること」（35.4%）の順で続き、これらの 2 項目は 3 割を上回った。平成 25 年度との経年比較を行った結果、「迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）」は今年度（44.4%）が平成 25 年度（40.3%）を 4.1 ポイント上回り、総合順位が平成 25 年度の 3 位から今年度は 1 位に上がった。

2. 市民自身のモラル・マナーについて

- この 1 年間で回答者自身が迷惑行為をしたかを尋ねたところ、「まったく心当たりが『ない』」が 5 割強（54.6%）と、半数を占めた。「正直言って『ある』」は 13.8%と、約 7 人に 1 人がこの 1 年間に迷惑行為をしたことがあるとの結果になった。「正直言って『ある』」の回答者の属性を見ると、性別では、男性（18.1%）が女性（11.1%）より多い傾向にあった。年齢別では、中高年層に高い傾向が見られた。職業別では、学生（0.0%）が少なかったものの、最も多かった会社員（16.9%）を筆頭に自由業と続き、

職業ごとの大きな差は見られなかった。なお、居住区を行政区別に見ても、最も多い若松区（20.0%）と最も少ない八幡西区（10.5%）の差は9.5ポイントと、区による大きな差は見られなかった。平成25年度との経年比較を行った結果、『正直言って「ある」』は今年度（13.8%）が平成25年度（19.8%）を6.0ポイント下回った。『まったく心当たりが「ない」』は今年度（54.6%）が平成25年度（72.3%）を17.7ポイントと大幅に下回った。

- 1年間で迷惑行為をしたことが「正直言って『ある』」と回答した166人に、その内容を尋ねたところ、「迷惑駐車」（29.5%）が最も多く、次いで「家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと」（28.9%）、「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」（22.3%）と続いた。性別では、喫煙に関連するモラル・マナー違反は男性のほうが多い傾向にあった。一方、「家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと」や「飼い犬のふんを放置すること」は女性が男性を上回るなど、性別で傾向に違いが見られた。年齢別では、高年齢層で多い傾向にあった迷惑行為は、「迷惑駐車」（60歳代40.0%、70歳以上32.6%）、「飼い犬のふんを放置すること」（60歳代15.0%、70歳以上34.9%）だった。特に、70歳以上における全体よりも5ポイント以上高い項目の数が10/16項目と、全ての年齢層の中で突出して多かった。平成25年度との経年比較を行った結果、「迷惑駐車」は今年度（29.5%）が平成25年度（31.2%）を1.7ポイント下回ったが、総合順位は1位のまま変動はなかった。「家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと」は今年度（28.9%）が平成25年度（19.2%）を9.7ポイント上回り、総合順位は平成25年度の3位から今年度は2位に上がった。一方「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は今年度（22.3%）が平成25年度（22.5%）を0.2ポイントとわずかに下回り、総合順位が平成25年度の2位から今年度は3位に下がった。
- 同じく、1年間で迷惑行為をしたことが「正直言って『ある』」と回答した166人に、その理由を迷惑行為別に尋ねてみたところ、「周りに迷惑をかけていると思わなかったから」を選んだ割合が最も多かった迷惑行為は、「公共の場所で喫煙をすること」（31.6%）が最も多く、唯一3割を上回った。「面倒だったから」を選んだ割合が最も多かった迷惑行為は、「家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと」（45.8%）が最も多く、次いで「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」（35.1%）と続き、この2項目は3割以上となった。「罰金・罰則がなかったから」を選んだ割合が最も多かったのは、「飼い犬のふんを放置すること」（12.0%）だった。一方「みんながしていたから」を選んだ割合が最も多かったのは、「迷惑駐車」（18.4%）であり、次いで「公共の場所で喫煙をすること」（15.8%）、「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」（10.8%）となり、これらの3項目は1割を上回った。このように、迷惑行為をした理由は様々であるが、共通して「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」が上位となっていることから、これに対策を講じることが、市全体のモラル・マナーアップの向上に繋がるものと考えられる。
- 迷惑行為の内容で最も多かった「迷惑駐車」について詳細を見ると、「面倒だったから」（26.5%）が3割弱で最も多く、次いで「みんながしていたから」（18.4%）が続いた。「迷惑駐車」のサンプル数は平成25年度と同様に、今年度も最も多かった。平成25

年度との経年比較を行った結果、「面倒だったから」は今年度（26.5%）が平成 25 年度（22.1%）を 4.4 ポイント上回ったが、総合順位は 1 位のまま変動はなかった。「みんながしていたから」は、今年度が（18.4%）が平成 25 年度（10.5%）を 7.9 ポイント上回り、総合順位は平成 25 年度の 3 位から今年度は 2 位に上がった。一方「周りに迷惑をかけていると思わなかったから」は、今年度（14.3%）が平成 25 年度（19.8%）を 5.5 ポイント下回り、総合順位が平成 25 年度の 2 位から今年度は 3 位に下がった。

3. モラル・マナー向上に効果的な取り組みについて

- 市民のモラル・マナー向上に効果的な取り組みについて尋ねたところ、「学校教育や家庭でのしつけにより、社会のルールやマナーを身につけさせる」(53.7%)が最も多く、子どもの頃からモラル・マナーを身につけることを重視している傾向にあった。次いで「モラル・マナーは個人の問題なので、市民一人ひとりが自覚を高める」(48.3%)、「法律や条例などで罰金を科すなど、規制を強化する」が（43.5%）と続いた。平成 25 年度との経年比較を行った結果、総じて経年による大きな変化は見られなかった。

4. 「モラル・マナーアップ関連条例」の認知度について

- 「モラル・マナーアップ関連条例」を知っているかについて尋ねたところ、「知らなかった」(66.8%)が約 7 割を占め、本条例の認知度を高める必要性を感じさせる結果となった。年齢別では、「知っていた」は 70 歳以上（35.9%）が最も多く、次いで 40 歳代（32.3%）、60 歳代（31.6%）と続き、中高年層での認知度が高かった。一方、最も少ない 10・20 歳代（14.8%）は、唯一 2 割を下回り、若年層へのアピールの必要性が浮き彫りになった。居住区を行政区別に見ると、「知っていた」が最も少なかったのは若松区（19.1%）で、唯一 2 割を下回っており、最も多かった小倉北区（37.2%）との差も 18.1 ポイントと大きな差が見られることから、同区に対し重点的にアピールしていくことが有効と考えられる。平成 25 年度との経年比較を行った結果、「知っていた」は、今年度（30.1%）が平成 25 年度（36.6%）を 6.5 ポイント下回った。一方で「知らなかった」は、今年度（66.8%）が平成 25 年度（60.5%）を 6.3 ポイント上回ったことから、本条例の認知度が低下していることが見受けられる。

5. 「迷惑行為防止重点地区」の認知度と現状について

- 「迷惑行為防止重点地区」を知っているかを尋ねたところ、最も多かったのが、「全く知らなかった」(41.4%)だった。次いで「小倉都心地区（JR 小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など）については知っていた」(32.6%)、「どちらも知っていた」(18.3%)と続いた。「黒崎副都心地区（JR 黒崎駅前、商店街など）については知っていた」は、4.9%であり、小倉都心地区と比較すると 27.7 ポイント下回り、認知度に大きな差が見られた。居住区を行政区別に見ると、「小倉都心地区（JR 小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など）については知っていた」が多かったのは、地域柄、小倉北区(54.1%)が最も多く、「黒崎副都心地区については知っていた」も、地域柄、八幡西区(14.0%)が最も多かった。平成 25 年度との経年比較を行った結果、「全く知らなかった」は、

今年度（41.4%）が平成 25 年度（29.2%）を 12.2 ポイントと大きく上回った。「小倉都心地区（ＪＲ小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など）については知っていた」は、今年度（32.6%）が平成 25 年度（36.2%）を 3.6 ポイント下回った。「どちらも知っていた」は、今年度（18.3%）が平成 25 年度（27.7%）を 9.4 ポイント下回った。このことから、「迷惑行為防止重点地区」の認知度が低下していることがうかがえる。

- 「迷惑行為防止重点地区」を知っている市民に、「小倉都心地区」の迷惑行為の現状を尋ねたところ、「やや改善された」（38.9%）が最も多く、「大いに改善された」（23.8%）と合わせると、62.7%となり、約 6 割が『改善された』と感じている。平成 25 年度との経年比較を行った結果、「やや改善された」は、今年度（38.9%）が平成 25 年度（27.7%）を 11.2 ポイントと大きく上回った。また「大いに改善された」も、今年度（23.8%）が平成 25 年度（10.8%）を 13.0 ポイントと大きく上回った。一方「わからない」は、今年度（19.1%）が平成 25 年度（22.6%）を 3.5 ポイント下回った。このことから、同地区においては改善傾向にあることが見受けられる。
- 同様に、「迷惑行為防止重点地区」を知っている市民に、「黒崎副都心地区」の迷惑行為の現状を尋ねたところ、「わからない」（31.0%）が最も多かった。「大いに改善された」（11.2%）と「やや改善された」（20.0%）を合わせると、31.2%となり約 3 割が『改善された』と感じているが、小倉都心地区（62.7%）との差は 31.5%であった。平成 25 年度との経年比較を行った結果、「わからない」は、今年度（31.0%）が平成 25 年度（27.6%）を 3.4 ポイント上回った。「やや改善された」も今年度（20.0%）が平成 25 年度（13.4%）を 6.6 ポイント上回った。また、「大いに改善された」も同様に今年度（11.2%）が平成 25 年度（4.7%）を 6.5 ポイント上回った。このことから、「小倉都心地区」ほどではないが、「黒崎副都心地区」も改善傾向にあることが見受けられる。

6. 居住地域における迷惑行為防止活動の有無について

- 居住地域において迷惑行為防止のための活動が行われているかを尋ねたところ、「わからない」（67.6%）が約 7 割で最も多く、市民に十分に認識されていないという結果となった。居住区を行政区別に見ると、全ての区で「わからない」が最も多く、最も多い小倉北区および若松区（ともに 69.6%）と最も少ない八幡東区（61.4%）の差は 8.2 ポイントであり、全ての区で 6 割を上回ったことも踏まえると、居住区によって大きな差は見られなかった。平成 25 年度との経年比較を行った結果、総じて経年による大きな変化は見られなかったことから、居住地域における迷惑行為防止活動の認知度は依然として不足していることが見受けられる。

7. 「迷惑行為防止活動推進地区」の認知度について

- 「迷惑行為防止活動推進地区」について知っているかを尋ねたところ、「知らなかった」が 9 割弱（86.3%）に上り、市民に対してより一層のアピールが必要であると考えら

れる。年齢別では、「知っていた」が70歳以上（17.0%）で最も多く、次いで60歳代（14.6%）、10・20歳代（9.9%）と続いた。一方で最も少なかったのは、30歳代（3.6%）であり、年齢層によって大きな差が見られた。居住区を行政区別に見ると、「知っていた」は戸畑区（18.8%）で最も多く、最も少ない若松区（7.8%）との差は11.0ポイントと、居住区によっても差がみられた。なお、総じて経年による大きな変化は見られなかった。平成25年度との経年比較を行った結果、総じて経年による大きな変化は見られなかったことから、「迷惑行為防止活動推進地区」の認知度は依然として不足していることが見受けられる。

8. 参加可能なモラル・マナーの向上のための取り組みについて

- モラル・マナーの向上のために参加や協力ができる取り組みを尋ねたところ、「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」が9割弱（86.9%）で最も多かった。次いで「家族への教育やしつけを行う」（55.9%）、「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」（24.4%）と続いた。年齢別では、「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」は、50歳代（93.9%）で最も多く、次いで40歳代（90.1%）と続き、これらの層で9割を上回った。「家族への教育やしつけを行う」は40歳代（75.5%）で最も多く、次いで30歳代（71.4%）と続き、子育て世代を中心に多い傾向にあった。「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」は、60歳代（31.6%）で最も多く、次いで70歳以上（30.4%）が続き、高齢者層の割合が多くなる傾向が見られた。なお、総じて経年による大きな変化は見られなかった。

9. 居住地域における迷惑行為の状況について

- 居住地域における迷惑行為の状況について尋ねたところ、「やや改善された」が約4割（41.3%）で最も多かった。次いで「以前と変わらない」（26.4%）、「わからない」（24.4%）と続いた。「大いに改善された」（6.2%）と「やや改善された」（41.3%）を合わせると47.5%となり、5割弱の市民が『改善された』と回答した。年齢別では、10・20歳代を除く全ての年齢層で「やや改善された」が最も多く、その割合は70歳以上を筆頭に、年齢層が高い順に『改善された』と感じていることがわかった。一方、10・20歳代のみ「わからない」（39.5%）が「やや改善された」（33.3%）を上回った。居住区を行政区別に見ると、八幡東区を除く全ての区において「やや改善された」が最も多かった。平成25年度との経年比較を行った結果、全体的に改善傾向が見られた。「やや改善された」は、今年度（41.3%）が平成25年度（23.4%）を17.9ポイントと大幅に上回った。また、「やや改善された」と「大いに改善された」との合計も、今年度（47.5%）が平成25年度（25.2%）を22.3ポイントと大幅に上回った。一方で「以前と変わらなかった」は、今年度（26.4%）が平成25年度（40.7%）を14.3ポイントと大幅に下回った。

以上、今回調査の要約としてエッセンスをまとめた。

今回の調査では、アンケートを通して、「以前と比べ低下していると感じる市民のモラルやマナー」「自身が迷惑行為をした場合の理由」といったモラル・マナーに関する北九州市の現状と、「モラル・マナーアップ関連条例」「迷惑行為防止重点地区」「迷惑行為防止活動推進地区」など市の施策の認知度状況等に加え、平成 25 年度に行った同様の調査との経年比較の結果についてを知ることができた。この調査結果を活用し、更なるモラル・マナーアップに向けた施策推進を図っていききたい。